

アクセス

東名焼津インターより車で3分。



P 駐車場完備

自家用車のほか、大型バス 6 台駐車可能

お知らせ

- 正月三が日は、一年の無病息災を祈って「魔除け」の肩打ちを行います。
- 毎月18日は結縁日です。10時より「魔除け」を行います。住職が、千手観音様にかわって皆様に気を入れます。
- 毎月第一日曜日、朝9時より「般若心経を読む会」を開催しています。般若心経を三遍唱えてお祈りをささげます。



公式ホームページ

検索キーワードはこちらから

大覺寺全珠院

Google 検索

曹洞宗 大覺寺全珠院

Tel. 054-628-1811 FAX. 054-626-5345

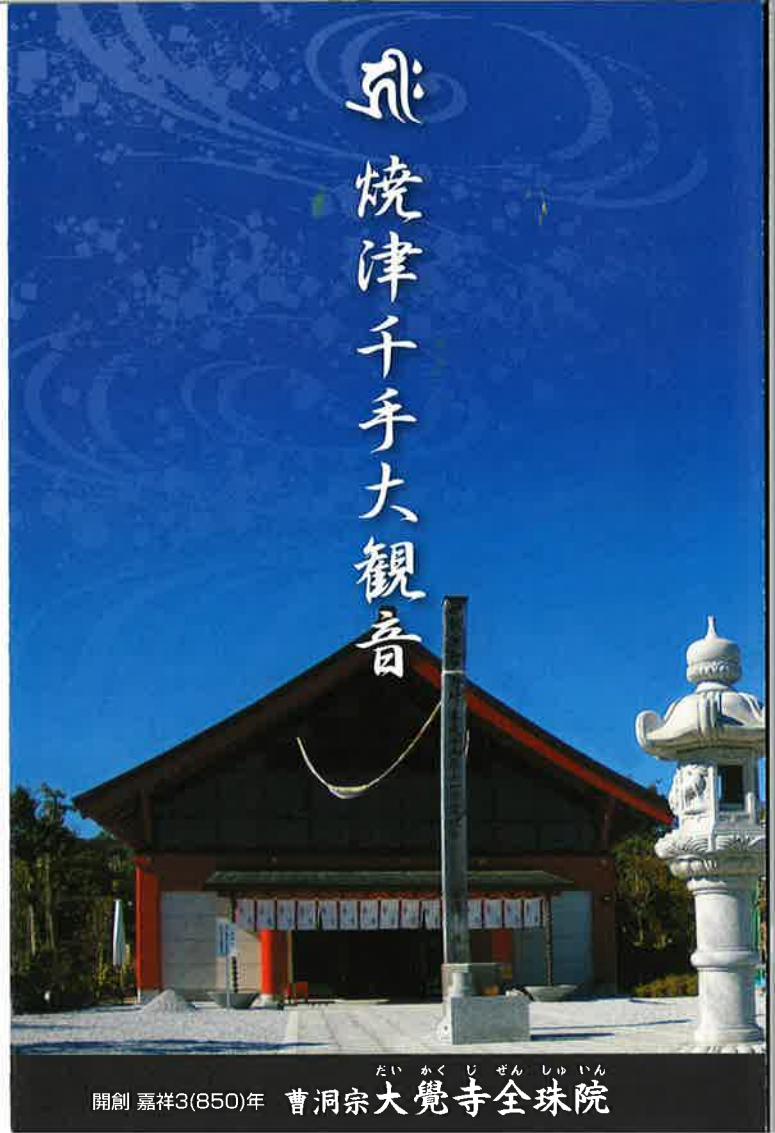
●拝観時間

午前9時～午後4時30分

●法要等で拝観できない場合があります。

●団体拝観／予約

●拝観無料



開創 嘉祥3(850)年 曹洞宗大覺寺全珠院

五

千手大觀音の功德

千手觀音は正式には「千手千眼觀世音菩薩」。千という文字は具体的な数ではなく、無量無辯を意味していますから、人々のあらゆる願いを叶え、生きとし生きるものすべてを悩みから救ってくれる慈悲の仏さまで、別名「大悲菩薩」とも呼ばれています。両脇からでている脇手は大願を成就させる法力をもち、それぞれの持物（じもつ）は、人々の願いを叶えるための道具。また、仏さまが膝の上に組んでいるのは「禪定印（ぜんじょういん）」で悟りをひらいたときの手。そして胸の前で合掌している手が、礼拝する人の心を受けとめ、願いを受けいれ、脇手に法力を發揮させる千手觀音の中心となる手です。

見上げれば、7m 近い高さから微笑みかける優しいお顔と金箔の輝き。人々のあらゆる願いを叶えてくれる法力をもつという、仏さまの前で、静かに合掌すれば、あなたもきっと、何かの力をいただけるはずです。



焼津千手千眼觀世音菩薩

千手大觀音様の大きさは、皆さんのが赤ん坊の大きさだとすると、お父さん・お母さんの大きさで造仏されております。
是非！焼津まで足をお運びください。日本一大きさを感じてください。
住職談



京都三十三間堂千手大觀音以来、
750年ぶりに造仏された焼津千手大觀音

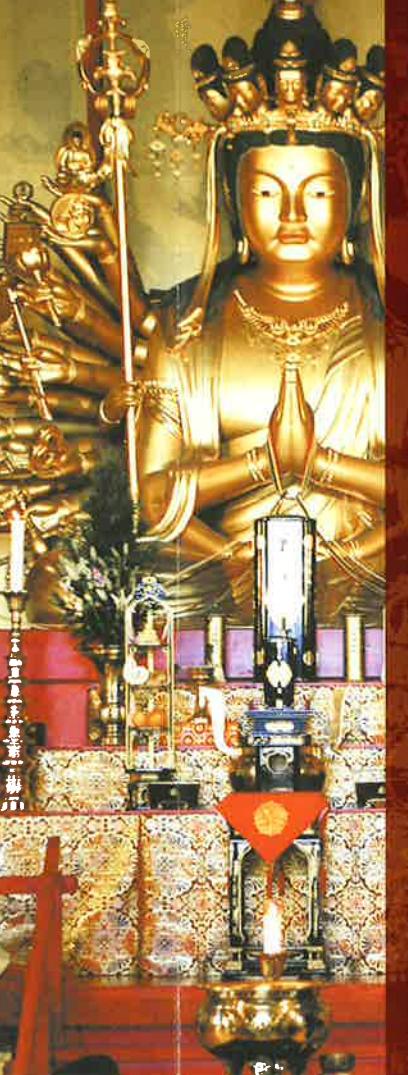


焼津千手大觀音 一丈八尺の大仏開眼

千手觀音は全珠院の本尊です。平成十五(2003)年本尊は新たに、千手觀音の大仏となりました。それは横田家三十二代目夫人の未来千年の幸福を祈って千年続く仏像をつくりたいとの発願からはじめました。著名な大仏師、渡邊勢山氏が、樹齢三百年～四百年の木曽ヒノキを使って造仏。水中乾燥法などの古来の技法や、漆塗りで材の強度を増し、さらに手打ちの金箔で漆を保護しているため、千年の歳月に十分耐え得るものです。

複雑な構造をもつ千手觀音像には大仏造立の例がほとんどなく、従来は、鎌倉時代の仏師・湛慶の作で知られる京都三十三間堂の丈六千手觀音が最大のものでした。

したがって、この像高4.2メートル、仏頭1.8メートルの仕上がりは、じつに750年ぶりに出現した大仏様式で日本一大きな千手觀音です。



曹洞宗大覺寺全珠院 開創と歴史

神話のヤマタタケル東征の舞台ともなった焼津。嘉祥三(850)年、嵯峨天皇御領、入江莊を開き、伝弘法大師作薬師如來を本尊として真言宗大覺寺が開創されました。現在の「焼津市大覺寺」の地名としてこの地に残っています。たび重なる天災地変を受け大覺寺の法燈は長徳四(998)年、莊園郷主大覺寺屋敷「本家 横田家」の菩提寺として天台宗善修庵にひきつがれ、弘治三(1557)年曹洞宗全珠院に改められ、今日までの法燈を伝えています。



正玄関



薬師如來像
(850年 秦安 伝弘法大師作)

千手觀音像
(998年 秦安)

※公開は致していません。

玉光山全珠院方丈

檀家様への接客空間としての客殿の機能や本堂としての莊嚴儀礼の場を合わせ持ち、また、【千手大觀音殿】にお参りされる方々の休憩や接待所のための新たな「方丈」建築です。【全珠院方丈】と【千眼千手觀音殿】は周囲の作庭と一緒に配置されていて、静寂な礼拝の空間を創り出しています。



龍爪(りゅうそう)の庭